



しし座流星群 2001年10月20日発行

毎年11月17日から19日の明け方にかけて、しし座流星群が多く見られます。流星は、宇宙にたまたま小さな砂つぶのようなチリが地球に飛びこんで、地球の大気とまざつて光る現象です。このチリは、おもに彗星(すいせい、別名ほうき星)から出てきたものです。決まった時期にまとまった数の流星が、空のある1点(放射点)から、空全体に飛び出すように見えるものを流星群といいます。

流星群の名前は放射点のある星座の名前がつけられています。

しし座流星群は、しし座の頭の付近に放射点をもつ流星群です。しし座流星群は、テンペル・タトル彗星の軌道に残った微粒子が地球と衝突するために見られます。

テンペル・タトル彗星は、太陽のまわりを33.2年で公転しており、1998年2月に太陽に最も近づき、しだいに太陽や地球から離れています。

ですから、今年は、流星のもとになるチリも少なく、例年どおり1時間に20～50個と思われるのですが、1999年と2000年の活動ピークの時刻をほぼ正確に予報したイギリスのデビッド・アッシャー博士によると、日本で11月19日未明(2時31分と3時19分)に大出現があると予想しています。

流星の観測には、街灯の明かりが少ない、見はらしのよい場所が観測にむいています。

また、夜は意外と冷え込みますので注意してください。

